

発行人 / 学園町自治会会長・萩野晶子
 企画編集 / 学園町自治会広報委員会
 編集長 / 浜名 純
 投稿・連絡先 / 学園町1丁目14番地31号
 電話 / 090-6005-7887

学園町 かわら版

購読無料・各戸配布 / 隔月刊行

119号



学園町HPは
こちらのQR
コードから

「児童、保護者、教員、地域の方々 みんなが誇れる学校を目指します」 菱田行記・五小新校長に聞く

4月から東久留米第五小学校校長に菱田行記氏が就任しました。10年前から5年間、東久留米市教育委員会の事務局に勤務しており、5年ぶりに東久留米に戻ってきました。「児童、保護者、教員、地域の方々みんなが誇れる学校を目指します」と語る新校長にインタビューしました。

——先生になるまでの経歴をお教えください。

菱田 1974年に名古屋で生まれ、幼稚園の時に岐阜県に引っ越しをし、大垣北高校から千葉大学の教育学部に進みました。小学校教員養成課程の社会科コース（社会科）です。1998年に卒業し、7年間、建築関係の企業で働きました。学生時代、社会と接する機会が増えるとともに、一般企業も面白そうだなという気持ちになりました。しかし、時を経るにつれやはり教員になりたいという思いが募るようになり、退職して教員採用試験を受け合格しました。

最初の赴任地は練馬区の小学校、次いで江東区、そして西東京市の谷戸小学校を経て、東久留米市教育委員会事務局指導室に勤務しました。ちょうど10年前のことです。5年間在籍、その後、豊島区立南池袋小学校の副校長を1年務めた後、豊島区教育委員会事務局指導課統括指導主事となり、この4月から第五小学校にやってきました。

——先生を志そうと思ったきっかけは何ですか。

菱田 小学校5、6年生の時の担任の

先生が児童みんなを楽しませようという工夫してくれました。例えば、体育館に泊まってみんなで星空観測をしたり、班ごとにミニ社会科見学をやったりしました。私の心の中に本当に楽しい思い出がいっぱい残り、教員になれたらいいなとずっと思い続けるようになったのです。

——子供への接し方で気をつけている点はどんなことでしょうか。

菱田 子供を子供扱いしないということとを大切にしています。一人の人間として接していくということです。それと、授業では子供たちが自ら考

えるということを大事にしました。また、中学、高校ではテニス部、大学でもサークル活動でテニスをしており、仲間と同じ目標を持って取り組んでいくことの大切さを学びました。児童全員が必ずしも一つの同じベクトル向かっていくわけではないので、皆が同じ目標に向かっていけるように工夫しました。

——教育委員会も含め、これまでの教員生活で一番印象に残っていることはどんなことですか。

菱田 子供が変わるところを間近で見



ることができた時は、とても達成感を感じました。「先生が教えてくれたので社会科が好きになりました」とか、卒業後、「先生のおかげで、こうになりました」と言ってもらえた時はうれしかったですね。

——着任したばかりですが、五小の最初の印象をお聞かせください。

菱田 まず挨拶をしつかりできる子供が多いことに驚きました。こちらが「おはようございます」と言うと「おはようございます」という言葉がすぐ返ってきます。今まで挨拶に力を入れてきただけのことがあるなど感じしました。古矢前校長からは、「うちの子供たちは本当にしつかりしています」とお聞きしていましたが、その通りだなと思いました。それと、先生方が何かに向かって頑張っていくという姿勢が強く感じられます。

——それらを踏まえ、これから校長としてこういことをやっていきたいという抱負をお聞かせください。

菱田 目指す学校像として、児童、保護者、教員、地域の方々みんなが誇れる学校にしたいと思っています。児童

にとっては「今日は楽しかった。また明日学校に来たい」と言えるような学校、保護者にとっては通わせてよかったなと思える学校、地域の方々にとってはここに五小があってよかったなと思える学校、教職員にとっては、ここで働けてよかったなと思える学校にしたいと思います。子供たちにとっては自己肯定感の醸成が大事だと思いますので、そういったところに留意して、いいところを認め褒めて、次の課題を与えるというサイクルをどんどん回していきたいと思っています。それが結果的に保護者にも伝わるはずですよ。また、地域と協力しながら活動していきたいと思っています。地域の子供たちをみんなを守る、そんな学校にしていきたいですね。

それと、校長というハードルを下げること、今、やっているんですよ。子どもたちの中に飛び込んでいきたいですね。ほぼ毎日教室を全部回って、授業も見ています。気軽に話してできるような関係になりたいと思います。

——最後に、学園町をはじめ地域との関わり方についてお聞かせください。

菱田 東久留米市では今年度から南中学校を皮切りにコミュニティ・スクール（CS）をスタートさせました。これは地域代表者、保護者、学識経験者など様々な人による学校運営協議会を学校単位で組織し、地域と学校の協働活動を活性化させようというものです。五小でも地域の方々と積極的な交流を通して、お互いウィンウィンで、持続可能な関係を築いていきたいと思っています。

2026年度自治会総会

100年の成果を次なる世代へ 荻野晶子氏が満場一致で会長続投へ

学園町自治会の2026年度総会が、5月24日(日)、自由学園ののめ茶寮で53人が参加して開催されました。1丁目の早野曜子さんが議長に選出され、議事が進行了りました。

まず荻野晶子会長が2025年度活動の総括報告。会員数は630世帯で、施設への転居や逝去などで22世帯が退会、新たに15世帯が入会しました。

「まちづくり活動」では、学園町で開発を行う不動産業者への学園町憲章の説明と協議、専門家を交えた市との協議、自治会での説明会、運営委員会内協議を開催したのをはじめ、11月23日には「学園町見学ツアー・建築と庭が語るまち」を実施しました。

広報活動では、ホームページが開設されて1年が経ちましたが、東久留米市だけでなく都心部や大阪、海外からのアクセスがあったことが報告されました。このほか「安全・防犯活動」「学園町誕生100年イベント」「募金活動」朝市や敬老の日のお赤飯配り、修学祝いなどの諸活動、「資源集団回収」について担当者から報告がありました。

次いで、会計報告と監査報告のあと、2026年度の事業計

画と予算案の説明がありました。2026年度を学園町誕生100年の成果を次の段階へつなげる年と位置づけ、連携の強化と安全で安心して暮らせる地域づくりを推進することを謳っています。

まちづくり活動計画では、学園町らしい環境を次世代へつなげる取り組みを進めるために「学園町憲章の運用の仕方」について、改定が議案として提出されました。具体的には、第1項に「土地を売却する住民は不動産業者へ学園町憲章を伝える」旨を追加すること、第3項の対象に「施主」を追加するとともにチェックリスト(質問状への回答)の提出を求める旨を追加するという計3点。賛否を諮ったところ、賛成多数で承認されました。

また、東久留米市の特殊詐欺認知件数は、2024年が2260万円だったのが、2025年には2億4710万円と10倍以上に増えていることを踏まえ、日ごろのあいさつやコミュニケーションを活用して町全体の抑止力を挙げることに力を入れることとしています。

予算案は、収入の合計額が209万円で、前年度実績に対し18万円の増加を見込んでいます。

自治会費改定により自治会費収入が増加しました。

支出面では、地域コミュニティ強化を目的とした親睦行事費に重点配分しました。クリスマスコンサート、まち歩きイベントなど49万円で、前年度実績に比べ40万円の増加で、支出の合計額は261万円と前年度実績に対し55万円の減額予算となりました。以上の収支を全体として見ると2026年度の収支は51万円の赤字予算となり、これまでの繰越金を活用して進める方針です。

なお、今年度は会長の改選期に当たっており、会則に従い新会長の選出が行われ、満場一致で荻野晶子現会長が選出されました。

『ルポ 支援という生き方
— 貧困問題の最前線』
室谷明津子さん著
ちくま新書 1,056円



「ルポ 支援という生き方」—— 貧困問題の最前線」を上梓しました。

家を失った人に一時的な住まいを提供し、生活を立て直す「ハウジングファースト」に基づく支援を東京中野区で実践している「つくろい東京ファンド」の活動に2023年6月から約2年半にわたって伴奏した記録です。もともとビジネス分野を中心に取材記事を書いていた明津子さんが、初めて飛び込んだ「福祉と支援と貧困問題」。「大変な現場で、立派な人たちが悲壮な覚悟で頑張っている世界」という先入観がもろくも崩れ去っていききました。能力やお金、社会的地位を「もつこと」を目指すビジネスの世界と反対に、支援の世界は「もたない」人たちとともに生きることを模索していたのです。支援する人と支援される側(当事者)の間には、目に見えぬ壁があると思っていたのですが、そうではありませんでした。支援者も当事者も同じ人間なのだ。そんな思いをビビッドに綴っています。そして、「なんで、そんなに楽しそうなんですか」と問うのです。

私は、藤原章生著『差別の教室』(集英社新書、1100円)を思い出しました。彼は、2005年、『絵はがきにされた少年』で開高健ノンフィクション賞受賞。『差別の教室』は2018年から4年間、中央大学法学部で職業・差別・人権について講義したものをまとめたものです。その著書の中で、「人の心に貼りつく差別の『種』は、いつ、どこで生まれるのか」、「属性、アイデンティティ、ナショナルリティ、そして一般論といったものが差別を生み出すのです。そんな『種』『集合体』から離れ、誰もが個として生きていけたら、差別はずいぶん収まっていくはずですよ」と喝破しています。

さて、本書は5章に分かれており、「つくろい東京ファンド」の代表理事・稲葉剛さんをはじめ5人の中心メンバーの日々の活動と人生を描いています。それを通して、なぜ貧困ビジネスが受け皿になるのか? 潜在化するホームレスの増加、外国人の在留許可問題、生活保護に対する自治体の横暴などが浮き彫りにされています。

明津子さんは、最後に、「いのちのとおり裁判」の最高裁判決後の政治の動きや、外国人規制、自己責任という言葉で弱者を封じ込めようとする風潮に言及し、「読んだ人にも、どうか葛藤してほしい」と述べています。「今だからこそ、皆さんに自分のこととして読んでもらいたい一冊です。(浜名純)

あの感動シーンがよみがえる

『海外サッカーの世界』(株式会社カンゼン)

赤木真二さん(写真・文)に聞きました



自由学園出身で、日本を代表するスポーツフォトグラファー赤木真二さんが、『海外サッカーの世界』(株式会社カンゼン、定価3600円十税)を刊行しました。40余年にわたって世界のサッカーを撮り続けてきた赤木さん。来年70歳の古希を迎えるに当たっての集大成の1冊です。赤木さんは8回以上ワールドカップを取材しているジャーナリストに贈られるジャーナリスト・オン・ザ・ボディウム(JOP)を2022年に受賞。セリエA、プレミア、リーグ、ブンデス、そしてワールドカップなど海外のサッカーシーンがよみがえってきます。

——自由学園を卒業して一般企業に就職したものの2年で辞めてカメラマンの道を歩み始めたとお聞きしました。そのきっかけは何だったのでしょうか。

赤木 社会人1年目の6月、叔父・秋元啓一が49歳で急逝しました。朝日新聞出版写真部長でした。葬儀で聞いた作家、開高健の弔辞が心に残り、カメラマンという職業へのこだわりが頭をもたげました。叔父は、開高氏とともにベトナム戦争の取材に行き、アラスカで釣りの撮影をしました。自分の



写真が掲載された週刊朝日や朝日グラフを自由学園の小学生だった私に見せてくれたのをはじめ、高校になるとカメラ(ニコンF)を貸してくれ、撮った写真を現像してくれて、写真の世界が身近なものになりました。当然のようにカメラマンという仕事を意識しました。この本で10歳年上の富越正秀カメラマンにインタビューしていますが、大学時代にベースボールマガジン社から出版された富越氏の欧州サッカー写真集の印象が強烈で、サッカーカメラマンに憧れました。

しかしながら、当時は大学を出たら就職するのが当たり前の時代で、普通に就職しました。その矢先、叔父の死をきっかけにカメラマン1本で行くと決め、2年後に退職しました。

——そして、82年に南米旅行から

スペインワールドカップ観戦に向かったのを皮切りに、現在までサッカーワールドカップ10大会、数多くのサッカー国際大会のフアインナルの写真を撮り続けてきました。赤木さんにとってサッカーとは何だったのでしょうか。

赤木 自由学園時代はサッカー部でしたが、プレーヤーになるなど不可能です。でも、カメラマンとしてなら世界的な大会のフィールドに立つことができる、という思いです。第一線のサッカーの現場に身を置きたかった。もちろんすぐにカメラマンで食べていけるわけではなく、最初の頃は編集の仕事などをして糊口をしのいでいました。スペイン大会では、僕の撮ったサポーター写真が一枚だけ雑誌に掲載されました。

ヨーロッパや南米では、サッカーが生活の一部として根づいています。「おらの町のおらのチーム」を精一杯応援し、一喜一憂する。そんな様子を写真を通して多くの人に知ってもらいたいと思いました。

——今までに印象に残ったことやエピソードなどお聞かせください。

赤木 数えきれないほどのエピソードや思い出があります。1982年にリオ・デ・ジャネイロで撮影した初めての国際試合、ブラジル対西ドイツ。国歌斉唱の時、人垣をかき分けて最前線に出るとあのジーコが目の前にいて、

2022年のカタール大会でJOPを受賞。ブラジルのスーパースター・ロナウドからミニワールドカップを受け取る。



では考えられないエピソードです。

——今回、本を刊行しようと思った動機をお聞かせください。

赤木 デジタルデータ以外に、膨大な量のフィルムが手許に残っています。放っておけば色褪せてしまいます。あの時の感動を次の世代にも見てもらいたいと思い、印刷物にすることにしました。軽くタッチすれば画面が変わるスマートフォンではなく、ページをめぐることで写真の良さや時の流れも伝わると思いました。フィルムとデジタルでは「色」も「感覚」も違います。なんとかフィルムの良さを出したいというのが課題でした。幸い私より5歳若いフィルム世代のデザイナーが頑張ってくれて、フィルムの良さを引き出してくれました。

2012年ウクライナ・ポーランド共催の欧州選手権で3週間キーウに滞在しました。2018年にはW杯で6週間モスクワに滞在しました。素晴らしい二つの街の記憶は簡単に崩れました。

192ページの最後に2001年に撮影したウクライナ代表の写真が掲載されています。戦車ではなくサッカーで平和な日々が戻ることを祈っています。

屋敷林ネットワークの皆さまを 学園町にお迎えしました

4月12日、東京屋敷林ネットワーク (http://yashikin.net) の皆さまを学園町にお迎えしました。

都内で広大な屋敷林を守り継いできた方々をはじめ、研究者、都市計画や公園整備の専門家、樹木医のなど、関東近郊から多様なメンバーが参加。貞明皇后の養家である大河原家の現在の当主、そして国登録有形文化財である東久留米市柳窪の村野家住宅(顧想園)の当主にもご来町いただきました。

当日は、町内数軒のお宅の敷地内を見学したほか、自由学園内の見学も行い、学園町の環境や歴史について理解を深めました。

学園町に多く残る松について樹木医でもある福島司・東京農工大名誉教授から「曲がらず真っ直ぐに伸びる松は、コナラやイヌシデとともに育つ植生環境によるものである」という興味深い話がありました。

一方で、現実の厳しさについても共有しました。柳窪の村野家周辺は、雑木林のある広い敷地と住宅が次々と解体整地され、伐採に歯止めがかからないとのことでした。また、屋敷林や緑を守る取り組みは、行政を相手にした「交渉」という形ではなかなか成立せず、

日々個人が奮闘しながら守り続けている現状があることも教えていただきました。

今回の交流を通じて、学園町の環境が決して当たり前ではなく、多くの努力と想いによって支えられていることを改めて認識しました。多くの示唆と気づきを得た。大変有意義な一日となりました。

緑ヶ丘キャンパスで みんなで自由に 泥んこ遊びを満喫

北本晴香

5月2日、自由学園緑ヶ丘キャンパス(旧緑ヶ丘幼稚園園庭)開放が行われました。爽やかに晴れ、気温もぐんぐん上がったこの日、「今日は泥遊び日和だね!」と息子たちと話しながら向かいました。

園庭開放は、自治会員でなくても自由に遊ぶことができます。この日は0歳から小学3年生まで、12人の子どもが集まりました。この地域ではなかなかできないボール遊びも大歓迎で、最初はサッカーやボール投げをしていた子どもたちも、暑くなるにつれ靴を脱

ぎ、次々と砂場へ集まってきました。

砂場を掘り始め、水道からホースで水を流すと、あつという間に川や池が完成。小さい子は泥の感触を楽しみ、小学生は水の流れを考えながら夢中で川を掘り進めます。帰る頃には、砂場を飛び出し園庭の半分ほどまで広がる大きな川になっていました。

気づけば3時間近く泥遊びをしていたでしょうか。みんな顔まで泥だらけ。公園では、遊び方にルールがありますが、ここでは子どもたちが自分で遊びを考え、楽しむことができます。そんな「自由に遊べる場所」は、とても貴重だと感じました。

園庭開放では、お着替えやご飯を食べる部屋も用意されています。ぜひ皆さんも遊びに来てください。園庭開放は、毎月第1土曜日9時30分~15時。詳しい日程は、学園町自治会回覧板をご確認ください。



おしらせ

《桂伸衛門・春風亭昇也二人会》

ひばりヶ丘駅前での落語を堪能しませんか。ひばりヶ丘の酒屋「エスポアはせがわ」が営むバル「ばんべーる」主催の地元ド密着の落語会です。

日時：6月14日(日) 会場 13時半、開演14時
場所：スタジオひばり(西東京市ひばりヶ丘北4-1-31、ひばりヶ丘駅北口徒歩2分)
前売・予約 3500円(15歳以下2000円)、当日 4000円(15歳以下2500円)。予約・お問い合わせは電話または公式ラインで。電話：042-421-2208(水~日の14時~20時)公式ラインは以下のQRコード。ふるってのご参加お待ちしております。



《南部地域センター》

※各イベント問合わせは南部地域センター(指定管理者(株)セイウン) ☎042-451-2021
Mail higashikurume_nanbu@s-seiun.co.jp
★「シニアヨガ」
・6月12日(金)・26日(金)・7月10日(金)・月24日(金)
1部10:00~11:00 2部11:30~12:30
・参加費：700円(当日払い)
★「脳もイキイキ!足腰元気体操」
フレイル予防に足腰元気体操を始めませんか!
・6月15日(月)・7月6日(月)・20日(月)・8月3日(月)
・参加費：300円(当日払い)
・講師：介護予防運動指導員 山崎恵利子
★「南部野菜市」
無農薬の新鮮な野菜・果物を地域の皆様に提供販売します。
・6月16日(火)・23日(火)・30日(火)・7月7日(火)・14日(火)・21日(火)・28日(火)
・8月4日(火)・協力：グルッペ
★みんな集まれ「シャキッと脳活!」脳トレで、認知症、フレイルを予防しよう!
・6月21日(日)・7月5日(日)・19日(日)・8月3日(火)10:00~12:00・参加費：100円

★「フラワーアレンジメント」
父の日に、おとうさんとっしょに花束づくりをやりましょう!
・6月21日(日) 10:00~12:00
・定員12組・参加費：1,500円
★お宝いっぱい!「まあぶるミニバザー」
地域の皆様よりご提供いただいた洋服・食器類・雑貨・書籍等をお手頃価格で販売します。
・6月16日(火)・7月21日(火)13:30~15:30
・問合せ:(社福)すぎのこまあぶる 042-473-5896
★「なんぶおしゃべりサロン」
・7月5日(日)・8月2日(日)13:30~15:30
★「わいわいがやがや室内ゲーム」
子どもから大人まで誰でも参加できる手作りの室内ゲームで「わいわいがやがや」と楽しんで遊びましょう。
・7月5日(日) 13:30~16:00
・入退場自由 ・参加無料
・受付:6月16日(火)10:00~※当日参加可
★「バクさんとうたおう!」
・7月26日(日)開場13:45
・参加費500円

園庭開放
開催日:6月16日(火)食事つき、22(月)、7月3日(金)、9日(木)
時間:10:00-11:00

入園説明会
日時:6月13日(土)
時間:10:00-11:30
これから幼稚園を検討される方、これまでイベントにご参加いただいた方に向けた入園説明会を開催いたします。

■自由学園初等部
U12 こども広場
日時:6月6日(土)
時間:9:30~11:30
初等部エリアを開放し、自由に遊んでいただけるイベントです。当日は末就学児対象のワークショップも開催いたします。お気軽にご参加ください!
※上記催しについて、詳細・お申込みは自由学園のHPよりお願い致します。

※お問合せ先:自由学園広報室
TEL:042-428-2123
e-mail:kh@jiyu.ac.jp
URL:https://www.jiyu.ac.jp

《自由学園》

■自由学園幼児生活園幼稚園

